

# みみタロウ

日本語版 ☆144号 2022年7月

滋賀県国際協会ボランティアグループ「みみタロウ」  
住所：大津市におの浜1-1-20 ピアザ淡海2FTel : 077-523-5646  
E-mail : mimitaro@s-i-a.or.jp  
URL : https://www.s-i-a.or.jp  
Facebook : https://www.facebook.com/siabiwako

## いちど もう一度、前を向いて

今回みみタロウは、パーティー用ケーキなどのケータリングをされている「Tania Bolos」を訪ね、アラキ やスジさんとタニアさんご夫妻にお話を伺いました。



に渡った日本人で、長男の私は、病気の父に日本で治療を受けさせたい思いもあって、両親も一緒に連れてきました。私たちはここで二人の子どもに恵まれ、二人で滋賀の工場で働きながら家庭を支えてきました。そんな平穏な暮らしが一変したのは8年前。私が交通事故に遭って大怪我をし、仕事ができない体になったのがきっかけです。当時子どもたちは思春期で、まだ親が必要な時期。妻が一家の生活を一人で支えることになりましたが無理を重ねたため、うつ病を発症してしまいました。そして彼女もまた仕事を辞めざるを得なくなり、私たちの生活はさらに困窮することに。当時高校に入学する子どもの制服すら準備もできずに学校に助けていただいたことを思い出します。そうした中、まだ治療中だった妻が、得意なケーキ作りを仕事として始めようと立ち上ってくれました。

私たちはこの仕事がきちんと事業として進められるように家を改装するなどして保健所から営業許可を取得し、「Tania Bolos」を開業。そうなると私も何もしない訳にはいきません。工場ではもう働けませんが、家の作業なら体調に合わせてできます。それまで料理をしたことはありませんでしたが、友人からブラジルコロッケの秘伝のレシピを教えてもらい、妻の横でおつまみを作っています。そして何よりも、親として人生に前を向いている姿をもう一度子どもたちに見せることができ嬉しい思いです。子どもたちももう社会人と大学生になって、何かと私たちの手伝いもしてくれます。今年は息子が店の確定申告をしてくれたんですよ。

人生は思いもよらない事が起こります。工場での

仕事は長年私たちの家族を支えてくれ、もし何もなければそのまま続けていたと思います。しかし困難にぶつかってそこから学んだことで新しい道が開け、今の私たちがあります。しかもこの道は妻が彼女らしさをより發揮できる私たちだけの仕事です。ですからもし人生に行き詰まても、嘆いていないで前を向くと、きっと別の道が見つかると思うんですよ。

タニアさん：私はお菓子を食べるのが好きで、作ることも大好きでした。それでよくケーキを焼いては職場に持つていって同僚に食べてもらっていました。「こんなに美味しいケーキ、販売したら？」と褒めてくれる人もいて、私が働けなくなった時、そんな同僚の言葉を思い出してやってみる気になったのです。それまでは所謂素人のケーキだったので、教室に通い、プロのデコレーションを学んで本格的に仕事として始めました。

主にパーティー用のケーキやお菓子、おつまみなどを製造しており、例えば子どもさんの誕生日用には好きなキャラクターをあしらったりとご要望に合わせてお作りしています。おかげさまで口コミだけでお客様さんが増え、ブラジル人だけでなく、日本人や様々な国の方からも注文が入るようになりました。最近、日本人の若者の間でパートナーや友達がブラジル人だという人も増えっていて、そのような方からブラジル人のパーティーに参加したのをきっかけに注文をいただくことがあります。このように自然な形で日本人の方から私たちの文化の中に入ってきてくれて、とてもうれしいですね。週末など早朝から夜中まで作業を続けることが多いのですが、好きな事をしているせいか、随分体調も良くなりました。

今では困難な時期があった事も、新しい道に出会えた事も、全てがみたくもののかんへんうつしあわせの贈り物だと感じています。一日中夫婦で一緒なので時にはぶつかることもありますか、こうやってお互い助け合いながらこれからも前を向いて進んでいきたいです。

(タニア ボーロス FB)